事例番号:380181

原 因 分 析 報 告 書 要 約 版

産 科 医 療 補 償 制 度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 5 日

14:05　予定日超過、巨大児疑いのため分娩誘発目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 40 週 5 日

15:22　吸湿性子宮頸管拡張材挿入

妊娠 40 週 6 日

6:47　ｵｷｼﾄｼﾝ注射液投与開始

18:00　陣痛開始

20:10　経腟分娩

5) 新生児期の経過

⑴ 在胎週数:40 週 6 日

⑵ 出生時体重:3500g 台

⑶ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析:pH 7.37、BE -4.9mmol/L

⑷ ｱﾌﾟｶﾞｰｽｺｱ:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

⑸ 新生児蘇生:実施なし

⑹ 診断等:

生後 4 日 退院

生後 6 ヶ月 右不全麻痺の診断

⑺ 頭部画像所見:

生後 7 ヶ月 頭部 MRI で脳梗塞の所見

6) 診療体制等に関する情報

⑴ 施設区分:病院

⑵ 関わった医療ｽﾀｯﾌの数

医師:産科医 1 名

看護ｽﾀｯﾌ:助産師 5 名

2. 脳性麻痺発症の原因

⑴ 脳性麻痺発症の原因は、児に脳梗塞を発症したことであると考える。

⑵ 脳梗塞の原因および発症時期は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

⑴ 巨大児疑い、予定日超過のため妊娠 40 週 5 日に分娩誘発目的で入院としたことは一般的である。

⑵ 分娩誘発について文書による説明と同意を得たこと、妊娠 40 週 5 日に吸湿性子宮頸管拡張材を挿入したこと、および妊娠 40 週 6 日に吸湿性子宮頸管拡張材を抜去した後に子宮収縮薬(ｵｷｼﾄｼﾝ注射液)による分娩誘発を行ったことは、いずれも一般的である。

⑶ 妊娠 40 週 6 日の子宮収縮薬(ｵｷｼﾄｼﾝ注射液)の開始時投与量、増量法、および投与中の分娩監視方法(概ね連続監視)は、いずれも一般的である。

⑷ 胎児心拍数陣痛図上、妊娠 40 週 6 日 16 時 45 分および 18 時 17 分に変動一過性徐脈が認められる状況で、体位変換、医師への報告、酸素投与等を行ったことは一般的である。

⑸ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生時の対応およびその後の新生児管理は､いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

⑴ 学会･職能団体に対して

胎児期から新生児期に発症する脳梗塞の原因究明を推進することが望まれる。

⑵ 国･地方自治体に対して

なし。